

# 地藏尊

37期生

## I テーマの設定理由

ある新聞の記事に“地藏は宗教的か”ということで、ある裁判が行われたと書いてあった。その内容として、市の土地で“地藏”をつくったらしく、それをキリスト教徒の人が反対している。“地藏というものは宗教的なことではないか、それを市が特別に認めるとは…”と。

そもそも歴史的に地藏とはどういうものだったのだろうか？日本人にとっての習慣かそれとも本当に宗教か？と疑問を持ち、まずその手始めとして地藏としての役目を調べていきたいと思いました。

## II 研究方法

- 〔1〕 地藏尊について調べる。(本や新聞による文献から)
- 〔2〕 実際に地藏尊を調べる。(地藏尊の付近の人達に聞く)
- 〔3〕 地藏尊とは…と自分なりに考える。

## III 研究内容

### 〈地藏尊の歴史〉

お地藏さんの名で親しまれている地藏菩薩はいつも美しい花と線香の香りに包まれ、赤いよだれかけをして凡人の愚痴や願いごとを気やすく聞いて下さる親しみ深いほとけである。

地藏菩薩はお釈迦さまがなくなられてから弥勒菩薩がこの世に現われて仏道を成就するまでの無仏時代にこの世に現われて人々を救済する菩薩といわれている。

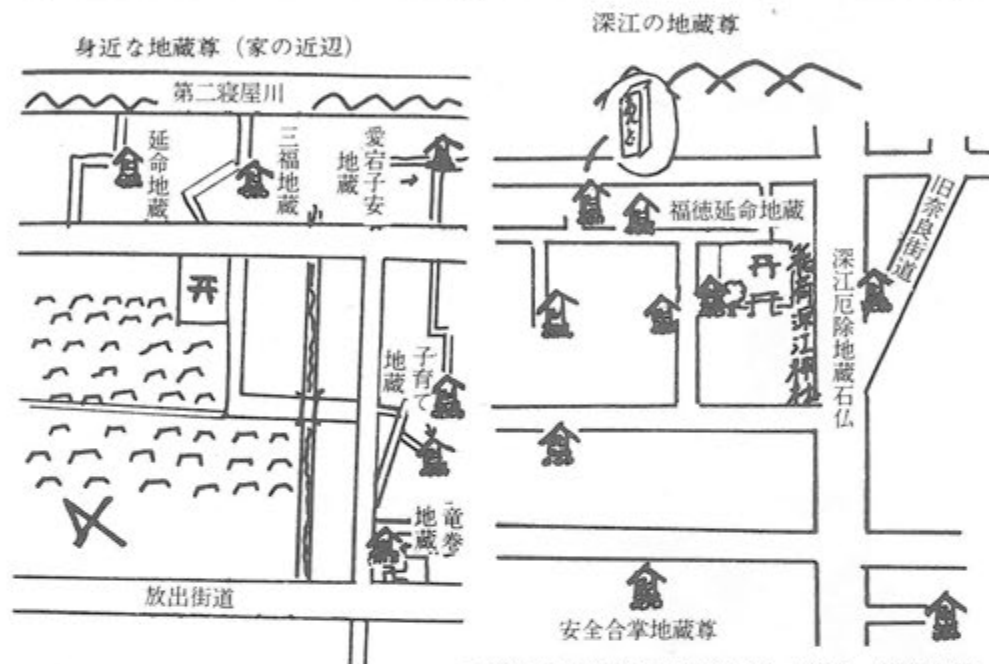
地藏信仰はもとインド仏教が起源で中国を経て平安時代にわが国に伝わり、鎌倉時代には、浄土観念の普及とも関連して現世と地獄とかけめぐり、地獄へ落ちて行く者や迷える者すべてを救済するみほとけであるという信仰が広まったと聞く。

一般に地藏尊の姿は右手に錫杖を持ち、左手に如意宝珠をささげ、剃髪した僧形であらわされ、はじめは木彫のものが多く立派な堂守に安置されていたが、いつしか在来のさえの神(道祖神)とも融合し、交通安全、疫病防止、子育て、縁結びなどその機能を地藏を受け継ぎ、ものを生み出す力や悪霊を追い払う力をもつみほとけとして村はずれなどに祭られるようになった。



## 地藏尊の分類表

(1) 死者の冥福と平和への祈願をこめて	三福地藏 延命地藏 おためし地藏
(2) コミュニケーションとして	子育て地藏 愛宕(あたご)・子安地藏 こり地藏 福德延命地藏 新一和講地藏尊
(3) 交通安全 道しるべ	法明上人旧蹟 安全合掌地藏尊
(4) その他	竜巻地藏 あんどの辻 夫婦地藏



〈おためし地藏〉

つぎに東大阪市における風土、歴史、信仰を基調とした地藏発生の要因とそれに属する地藏を紹介していく。

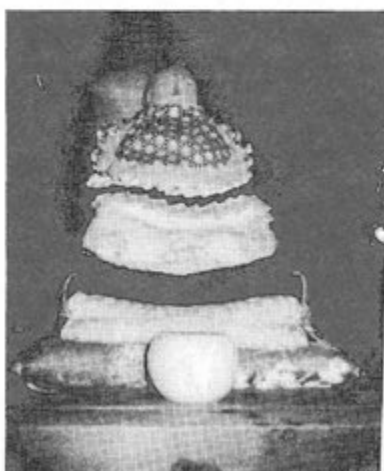
- (1) 室町より桃山時代にかけて河内平野では戦乱が相つぎ、それに加えて洪水も頻発し多くの尊い人命が失われた。そこで当時の人達は、死者の冥福と平和の祈願をこめて造立した。ここで紹介するのは、最近、村でおこった災厄から守る在来の神、又戦後の平和を願った地藏である。
- ☞ このお地藏さまは、昭和10年代にこの近くに伝染病がはやり、子供がたくさん死んでしまったそうなの。それで、上本町のあるお寺から、この地藏さまをもらってきてここの町内の地藏として、又子供のための供養として祭られている。



〈子安地藏〉



〈愛宕地藏〉



(約20cmの手のひらぐらいの地藏さま)  
〈福德延命地藏〉

(2) 最近では地藏さまの地藏盆は町内のコミュニケーションとして共同で地藏を造立するところが増えてきた。そこで、そのような地藏や、又掘り起こして出てきた町内の地藏としたものなどを紹介する。(その中でも特にめずらしいもの)

～子安地藏・愛宕地藏(又は勝軍地藏ともいう)～

270年程前ぐらいに建てられたと推定される。

(宝永元年)

### 1. 子安地藏

安産の地藏尊——赤子を前に抱いている。

### 2. 愛宕地藏(あたごじぞう) またの名は勝軍地藏とも云われる。

○甲冑をつけ、右手に錫杖、左手に如意宝珠をのせている。

○軍神としての地藏菩薩

○鎌倉時代以降、わが国の武家の間で信仰され、戦時中は出征兵士の武運長久を祈願した(1)と重複している)

○この地藏菩薩は大阪では、非常に少ないと云われる。

～福德延命地藏尊～

高月の北山本願寺から授かる。

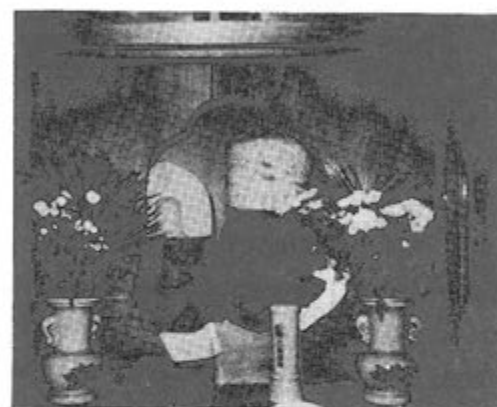
お寺の上に青い雪があった。それを親らん上人が何かあるのではないかとこのお寺へこられたこともあった。

このお寺のお坊さんが理由は分からなかったが、地藏さまを10体掘った。その10体のうち一体が、この左のお地藏さまなのである。

その9体の行方のうち1体はこの北山本願寺にある。その他の地藏さまで3体は、高月の北山へ行く道中(3つの山を越えなければいけないが)にあるそうだ。あと5体は教えていただいた人にも分からないそうです。



〈福德延命地藏尊〉



〈こり地藏〉

この地藏は、“この村には地藏さまがおられないのでぜひともほしい”という民衆達のねがいでもらってきたそうです。知恵の神様でもあり。たいへん大きな屋敷を持っている小さな地藏さまでもあります。それだけ、ありがたいんでしょう。

～こり地藏～

近くのおばあさんに子供が生まれてくる時、弱いとかで、小さいのに死んでしまうというので、守ってもらうためにつくられたような。

このどちらのお地藏さまも工事などで掘り起こされたり、拾ってきたりしたのだそうだ。

### 考察

このようにして、今では、地藏さまというのは一種の“付近住民のオアシス造り”として、市や町内の中で営まれているのです。

又、地藏さんの由来は、いろいろあるが、最近出来た中で最も多いのは、拾ってきたり、掘り起こして出てきたものである。それはなぜか？私の考えでは戦前はそこに建っていたのだが、戦争のため焼かれ、くだけ、そして埋もれたりしたんだろうと思う。道路工事などによく出てくるのはそのためである。

(3) 主要道路であった旧街道筋にその道中の安全を守る意味をこめて道しるべとともに地藏も作られたという。

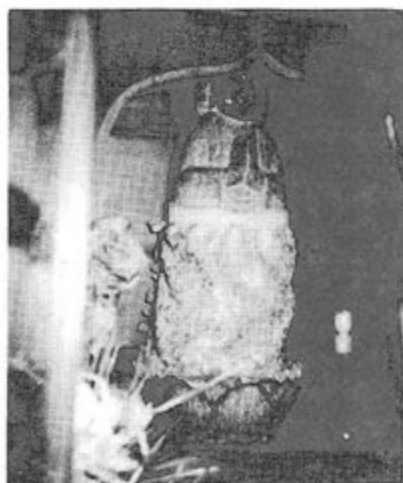
又、交通安全として、最近では建てられているところもある。



〈深江厄除地藏尊〉



〈深江厄除地藏石仏〉



〈安全合掌地藏〉

～深江厄除地藏石仏～

旧暗越奈良街道に南面するこの地藏堂はその昔から北へ法明寺への参道があったといわれ、ここはその四ツ辻にあたり、寺へいざないの石標（左の写真）が今も現存している。

この倉は釘1本使っていないはめ込み式である。屋根はつりやねである。

俗に厄除地藏と呼ばれるこの地藏石仏は、花崗岩造り、2m近くもある立像で法明上人が修業をつまめた1300年代にすでにあつたといわれる。

古老の話によると、『昔ここ深江村から今里までは一軒の人家もなく、すぐ西にある墓地あたりでよく強盗が出没したという。

あるとき、金を持った村人がこの墓地あたりで強盗に出合い顔を切りつけられ胴巻を押え命からがら逃げ帰った。ところが切られたはずの顔に傷がなく、不思議に思つて暮しているうちにある時、この地藏さまの顔の丁度、自分が切りつけられた切傷があるのを見つけおどろいた。これは地藏が自分の身代わりになられたものと信じ、それから一層信仰を深めた』という。

～安全合掌地藏尊～

大道路の前に建っていたこの地藏は交通事



〈安全合掌地藏尊〉



〈あんどの辻〉

がこれらの地藏からにじみ出ている。

真に庶民たちの心の表われ、結晶であるのが地藏さまではないか？…

(4) その他

故が多くあるので、事故防止のため昭和33年に町内の地藏として作られたのです。

特にこの地藏の変わっているところは、ふつうなら右手には杖、左手に宝珠を持っているの多いのだが、この地藏は“合掌”している。いつも“安全合掌”を祈っているのだろう。

考察

このようにひとつずつ調べていくうちに一番感じたのは、やさしさであった。

近所の子供が不幸でなくなると、二度とこのようなことがないようにと、みんなでして心配し、悲しんでいるというようなこと

～あんどの辻～

深江法明寺にある「安堵の御影縁起」によると、貞和4年（1348）の春、法明上人が雲の中の尊い僧（沙弥教信）逢い、安らかに極楽へ旅立てるとのお告げを聞いた。その辻を「あんどの辻」と語り伝えているという。（これは深江の名所である）



〈夫婦地藏〉

夫婦地藏

本当は名前がないんだけど、この容姿から見ればそんな感じがしたから名前を付けておきました。本当にこの地藏はめずらしい地藏である。一つの石に、薄肉で夫婦で掘られている。

そこの人の話によれば100年ぐらい経ているのだそうだ。この地藏の役目は子供を守ることである。（又は安産などである）

IV 総括

地藏さまをいろいろと紹介してきたが、この他にもまだまだたくさんあります。それでは“いったい地藏さまはどういうものだろうか”と思い自分なりに考えました。

昔の人は自分の悩み事、願ひ事など本当に心から聞いてくれるのが地藏さまだと信じ

こんなひっそりしているところでも……

祭りの日になると……



ていた。一心に庶民の人でも地藏を木又は石などで独自でつくっていた。

しかし、今では科学が発達し、月にも人間が立つような現代に「きっと、地藏さまにお願いすればかなえてもらえる。」といった考えは薄くなりつつある。

近頃はお年寄り中心の地藏盆などが行なわれ、若者たちには地藏は何の関心もなくなってきた。

地藏は庶民の心である。それが神でなくとも庶民たちの悩み事、ぐちなど、困った時に心をなごませ、又喜ぶさまをお地藏さまに見せようとしてより一層喜ばしいものに思えてくるのではないか？

現代に生きる我々がとかく見失おうとしている精神的に大切なもの、それはやさしさ、悲しさ、うれしさ、くやしき、思いやり…などこの地藏さまを通じて少しでも感じ取ろうと思います。

又、地藏さまなどはポツン、ポツンと少しぐらいしかないかもしれない？と調べる前、不安に思っていました。それがどっこい、本当に何げなしに、あそこの町角、そのすじにあそこにもというふうに住っているのです。何と身近なほとけなんでしょうか？全く庶民的なみほとけとでもいうのでしょうか？

宅地開発や道路工事などでとかく地藏さまを移転させるなどがよくある。この地で生まれ歴史を残していき、人々の心に刻みつけていた地から移転させるとは。そうして移転させた場所のまわりの人たちは何のために建てられたのか知らないまま終わってしまう。私は調べていっているうちにそういう人達によく出会い、わからないまま終わってしまった地藏がたくさんあった。私は思う。まわりの人達もこの“なぜこの地藏が作られたのか”知っておくべきであると。

だから地藏の存在意識を再認識し『東大阪市史』を知るための唯一の地藏さまを手厚く保護し、後世にも残しておくべきである。